



絶滅危惧種キタイワトビペンギンの種保存に向け、人工授精を実施 ～現在、有精卵の生育を確認。人工授精による受精か否かは誕生後のDNA鑑定で検証～



アドベンチャーワールド（和歌山県白浜町）では、絶滅危惧種（※1）に指定されている「キタイワトビペンギン」の域外保全および繁殖技術の確立を目指し、今繁殖期における人工授精の取り組みを実施いたしました。

対象ペアから産卵後、孵卵器で温めている卵について検卵を行ったところ、有精卵であることが確認され、順調に発生が進んでおりますのでお知らせいたします。

なお、本取り組みによって赤ちゃんが誕生し、DNA鑑定にて人工授精による受精が証明された場合、キタイワトビペンギンにおける人工授精の成功としては「世界初」の快挙となります（2026年10月時点自社調べ）。

（※1）IUCN（国際自然保護連合）レッドリストにて「危機（EN）」に指定。

■ 本取り組みの背景と実施内容

キタイワトビペンギンは気候変動や海洋環境の変化等により野生下での生息数が激減しており、持続可能な飼育下繁殖技術（人工繁殖技術）の確立が急務となっています。当パークでは今繁殖期、産卵前後の期間にかけて計6回の人工採精およびメスへの精子注入作業を無事に完了いたしました。

■ 現在の状況と科学的検証について

キタイワトビペンギンは通常卵を2個産卵します。現在、ペア（個体識別番号：R041×R045）の1卵目について有精卵の生育が確認されています。ただし、本ペア間では同期間中に自然交尾の可能性も残されているため、現時点で本有精卵が「人工授精」によるものか「自然繁殖」によるものかを特定することはできません。

そのため、10月下旬の孵化後、約1か月後に実施する「DNA鑑定（父子判定）」をもって、本取り組みによる人工授精の成否を科学的に判定・公表する予定です。

■ 今後のスケジュールおよび一般公開について

- ・10月25日（日）：嘴打ち（ハシウチ）予想 嘴打ち確認後「ペンギンベース1階」にて様子を一般公開予定
- ・10月27日（火）：孵化予想（初期人工育雛をペンギンベース1階にて公開）
- ・11月中旬：赤ちゃんの親元復帰（復帰に伴い、赤ちゃんは「ペンギンベース2階（非公開エリア）」へ移動）
- ・12月頃：DNA鑑定（父子判定）結果が出る予定

※動物の体調や生育状況により、スケジュールおよび公開エリアが予告なく変更となる場合がございます。



【キタイワトビペンギンについて】

- 分類 : ペンギン目 ペンギン科
- 学名 : *Eudyptes moseleyi*
- 英名 : Northern Rockhopper Penguin
- 生息地 : 南極大陸周辺、インド洋の亜南極地帯
- 食性 : 魚類、イカ、オキアミなど。アドベンチャーワールドでは主にシシャモやイワシなどを与えています。
- 繁殖 : 周囲を崖で囲まれた平地やゆるやかな傾斜地で草や枝などを使って巣を作り、2個の卵を産みます。抱卵はオス・メス交代で行います。
- 体長 : 55～65 cm
- 体重 : 3.5～4 kg
- 特徴 : 目の上から後頭部にかけて、長く鮮やかな黄色の飾り羽が特徴的です。また、陸上では岩場を歩くだけでなく、両足で跳ねるように移動する姿も特徴的です。

